



2022 年度

# 国際社会実習報告書

高知県安芸郡安田町中山地区





2022年度  
国際社会実習報告書



# 国際社会実習報告書

## 2022年度

### 【Contents】

発刊にあたって .....	01
国際社会実習（国内調査実習およびスタディ・ツアー）	
2022年度 高知県・中芸地域における「国際社会実習」について .....	02
自然と家族に囲まれた生活 —— ミエさんのライフヒストリー —— .....	05
ぶっつけ本番よ —— キヨミさんのライフヒストリー —— .....	12
安田町中山に移住して —— トミコさんのライフヒストリー —— .....	16
お手伝いとしての農業から現在に至るまで —— テルコさんのライフヒストリー —— .....	21
部落にたったひとつの電話 —— ミドリさんのライフヒストリー —— .....	26
大豊から安田の山暮らし —— フミさんのライフヒストリー —— .....	32

## 発刊にあたって

高知大学人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース 2022 年度国際社会実習報告書をお届けします。2020 年度、2021 年度はコロナ禍で実習が開催されませんでしたので、3 年ぶりの刊行となります。実施されたのは、2017 年度より継続して開講されている高知県安芸郡安田町中山地区での実習になります。「森林鉄道から日本一のゆずロードへ—ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」というストーリーが日本遺産に認定された地域の住民の経験を「生きられた歴史」として聞き取り記述するという活動です。人文社会科学部から、本実習初の留学生を含む 6 名の学生が参加し、本報告書には、学生がインタビューで得たストーリーが感想を付す形でまとめられています。その 1 つからの引用です。「お兄さんと山や川での遊びについて話を聞く中で、その情景が鮮明に浮かんできた…。」報告書を読んでも伝わってきませんが、現地で直接聞かないと得られないものがあります。別の報告からの引用、「自分が「当たり前」と感じていることが当たり前ではないという事実をひしひしと感じる貴重な経験になったようです。なお、本実習は令和 4 年度「高知大学教育奨励賞」を受賞しました。

国際社会実習は、実習内容や実習先、レベルに応じて、以下の 5 つがあります。国際社会コース開講の授業ですが、コースの枠、学部の枠を越え全学に開かれた科目となっています。

- ① スタディ・ツアー
- ② 外国語実習
- ③ 国内調査実習
- ④ 海外調査実習
- ⑤ フィールド・リサーチ

国際社会実習もようやく本格的に再開しました。リアルな体験、当たり前が当たり前ではないことを知る経験、見たことのない景色を見る機会を、ぜひ多くの学生に得てほしいと思います。

最後に、本報告書の刊行にあたり、人文社会科学部長裁量経費から補助を受けました。感謝申し上げます。

2023 年 6 月

高知大学人文社会科学部  
人文社会科学科国際社会コース長  
古 閑 恭 子

## 2022年度 高知県・中芸地域における「国際社会実習」について

岩佐 光広（高知大学人文社会科学部）

赤池 慎吾（高知大学次世代地域創造センター）

以下の報告は、高知大学人文社会科学部国際社会コースの専門科目「国際社会実習（国内調査実習）Ⅰ」および「国際社会実習（スタディ・ツアー）Ⅰ」として、2022年度2学期に高知県安芸郡安田町中山地区で実施した実習についてのものである。参加学生による報告に先立って、本実習の概要について簡単に説明しておきたい<sup>1</sup>。

高知県東部に位置する中芸地域（安芸郡奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）をフィールドとする国際社会実習は、2017年度より継続して開講しているものである。その共通テーマは、「中芸地域の日本遺産の「サブストーリー」を発掘しよう！」である。2017年3月、中芸5町村が共同で申請したストーリー「森林鉄道から日本一のゆずロードへ——ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」が日本遺産に認定された。この日本遺産に認定されたストーリーを出発点に、そこでは十分に描かれていない地域住民の個別具体的な経験に根ざした「生きられた歴史」をサブストーリーとして位置づけ、それを聞き取るインタビューを実施することが実習の中心的な活動となる。

本年度の実習も、これまでの基本的な方針を踏襲し、「地域住民へのライフヒストリー・インタビューを通じて中芸地域のサブストーリーを発掘する」というテーマを設定した。実習地は、2017年度に中芸地域での国際社会実習を最初に行った安田町中山地区である。この企画のもと、10月27日に説明会を開催した結果、人文社会科学部の6名の学生（3年生1名、2年生3名、1年生2名）が参加することとなった。なお、そのなかには、この実習を開始して初となる留学生も含まれている。

11月から12月にかけて事前学習を行い、インタビューの基本的なやり方を学ぶとともに、実習についての事前打ち合わせを行った。その中心的な作業は、2018年度から導入した「台本づくり」である。その手順は次のようなものである。まず、インタビューの場面を想定しながら質問項目や順番などをまとめた「台本」を各自で作ってみる。それを持ち寄り、内容を検討することでリライトをする。その後、インタビューを行うグループごとに、それぞれが作った台本をもとにグループの台本をつくり、その内容を参加者全員で検討し、それをふまえてリライトを行う。こうした段階をふみながら台本を「共同で」つくることで、参加者間でお互いの興味関心を共有するとともに、インタビューの進行のシミュレートを行うことも目的としている。

安田町中山地区での実習は、2022年12月2日から3日にかけて、一泊二日の日程で実施した。なお今回の実習では、安田町と高知大学の連携協定のもと、2022年4月にリニューアル

---

1 この実習の企画立案の背景や経緯、実習の実施形態などについては、各年度の実習報告〔岩佐・赤池2018；2019；2020〕において詳しく述べているので、それらを参照いただきたい。なお、以下の報告の内容も、上記の各年度の報告と重複する部分があることを予めお断りしておく。

した集落活動センターなかやまの簡易宿泊施設、およびサテライト教室を利用させていただいた。1日目は、実習地への移動と宿泊先での事前の打ち合わせを行った。2日目は、午前と午後の2回に分けて、サテライト教室でインタビューを実施した。インタビューに協力してくれたのは安田町在住の6名の女性で、午前3名、午後3名に分けてインタビューを行った。学生は2人のグループに分かれ、1名が中心となりインタビューを行い、もう1人はサポート役となる。午前と午後で役割を交代して、各グループ2回のインタビューを行った。また、午前中のインタビュー終了後、昼食を取りながら午前中のインタビューの簡単なふりかえりを行った。なお、当日の昼食は、インタビューに協力いただいたみなさんが調理をしてくれたものをいただくことができた。

以上の実習の事後学習として、ICレコーダーで録音したインタビュー内容のトランスクリプト(文字起こし)の作業を行った。それぞれが中心となって行ったインタビュー内容を対象に、録音したすべてのインタビューのトランスクリプトを行った。そのうえで、インタビューで語られたライフヒストリーの内容を、インタビュー어의語り口をいかしながらまとめたレポートの執筆を行った。

以下に掲載されているレポートは、実習に参加した各学生が上述の作業を経てまとめたものである(そのうちの一人は、実習直前に新型コロナウイルスに感染したために実習には参加できなかったが、赤池慎吾先生が行ったインタビューをもとに、トランスクリプトを行い、その内容をレポートとしてまとめたものである)。いずれのレポートも、インタビューを行った方のライフヒストリーを記述し、その後に感想を付すかたちでまとめられている。なお、学生のレポートについては、各学生が執筆した内容とスタイルを尊重し、教員の側で誤字脱字などのチェックは行ったものの形式の統一などはせず、基本的には提出された状態のものを掲載している。特に今回の実習に参加した学生たちは、2019年末からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴う活動制限を長らく経験してきた。その点も含め、学生たちが現地での実習を通じて何を感じ考えたのか、ぜひご一読いただければと思う。

最後に、2つ述べておきたい。1つは、本報告書の表紙についてである。今回の報告書では、2022年度に国際社会実習を開講したのが私たちの科目だけであったこともあり、編集を担当した土屋京子先生(国際社会コース留学・実習委員会委員長)から、実習地である中芸地域の魅力を伝えられるような冊子のデザインにできればとのご提案を頂いた。それを受けて提供したのが表紙の写真である。この写真は、中山地区の与床というところから写したものである。与床は小高い丘の上にある集落で、そこからは安田川の流れを眼下に見ることができる。明治末から昭和30年代までこの安田川の向こう岸を走っていたのが、魚梁瀬森林鉄道の安田川線である。森林鉄道については、学生たちがまとめたライフヒストリーにもたびたび登場している。こうした風景もあわせて、地域の方の語りをぜひ味わっていただきたい。

もう1つは、今年度開講した国際社会実習が、すぐれた授業や教育活動を行った教員を顕彰する「令和4年度高知大学教育奨励賞」を受賞することができたことである。この賞を受賞できたのは、今年度の実習先である安田町をはじめとする中芸5町村の各自治体、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会をはじめとする中芸地域の各組織の助力があつてのことである。そしてなにより、インタビューを受けていただいたみなさんのご協力、参加学生のみなさんの頑張

りがあったることである。みなさんに記して謝意を申し上げたい。

---

## 参考文献

---

岩佐光広・赤池慎吾 2018 「「国際社会実習（スタディ・ツアー）」および「国際社会実習（国内調査実習）」について」『2017年度 国際社会実習報告書』、高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科／人文社会科学部国際社会コース（編）、pp.76-80、高知大学人文社会科学部国際社会コース。

—— 2019 「2018年度 高知県・中芸地域における国際社会実習について」『2018年度国際社会実習報告書』、高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科／人文社会科学部国際社会コース（編）、pp.45-50、高知大学人文社会科学部国際社会コース。

—— 2020 「2019年度 高知県・中芸地域における国際社会実習について」『2019年度国際社会実習報告書』、高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科／人文社会科学部国際社会コース（編）、pp.18-19、高知大学人文社会科学部国際社会コース。

## 《国内調査実習》

### 自然と家族に囲まれた生活 —— ミエさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・3回生

尾中 まゆり

ミエさんは、昭和27年（1952年）6月28日に高知県安芸郡安田町に生まれる。現在70歳。現在は旦那さんと2人で安田町に住む。

#### ■家族——百姓のお父さん

——ご家族は、何をされておりましたか？ また、どんな人でしたか？

おじいさんもまだ元気やった頃、父はおじさんと一緒に、畑とか山を切り開いてたりとか、働き者でした。両親は私が10代の頃はずっと、農業をしてました。お米と温州みかんつくって、でも晩年は、もうみかんも（価格が）暴落してしまって、で、年いってから、父親も働きに出て。この辺でいったら、建設会社とか、そういうお仕事がいっぱいあったもんで、そういうところへ日役仕事、してましたね。私の両親は百姓1つでやってきたから偉かったなとは、尊敬はしてますけどね。

母親は専業主婦で、まあ、おじいさんもおばさんもおったし、小姑もおったし、大家族の中で、母が馬路（安田町と同じ中芸地域の村）から嫁いできて。嫁いできた時は、父親の1番下の妹がまだ4歳やったと。

おじいさんは山で働いたりとか、工事の、あそこに溝をつけるとか、あそこちょっと岸掛けついてするとかいう、そんな下請けみたいなのをしてたみたいで、おじいさんは割と開けた、そういう人でしたけど。

おばちゃんは縫い物、家でずっとしてたし。

#### ■こども時代——仲の良い兄弟とお手伝い

——子供時代は、学校以外の時間は何をされておりましたか？

稲刈りとか田植えとかはもちろんですけど、サツマイモとか麦とか、そういうものをもらって手伝いをしてましたね。学校から帰ってからも、お休みの日も。稲刈りの時なんか、学校から帰ったら、お父さんが鎌研いで、弟の分と2本置いて、「どどこどこに行きなさい」って、こんな黒板に書いて、置いてくれちゃったき。嫌でも行かないといかん（笑）。休日や言うて、友達と遊ぶことがなかったような気がする。手伝いで、家の。けど、それも当たり前やったから。家の仕事を親がしよったもんで、やっぱり。ついて一緒に行った、お弁当もらってね。親もその方が安心するし。

—ご兄弟と遊ぶことはありましたか？

あったよー。兄たちは、長男とは6個違うもんで、喧嘩もしたこともないし、そんなに遊んでくれたことはないけど、遠めにこう守ってくれよったというか。その下の兄は大人しかったもんで。一緒に遊ぶこともなく、本読んでおって、お守りしてくれたっていう感じ。

妹とは1つ違いですけど、1番下やもんで、泣き虫の、びちびちの。今では考えられんことやけど、小学校で私が2年になったら、妹が1年に入ってくるやないですか。で、学校行くときは私が手引いて行くんやけど、離れた時に泣いて泣いて、私の先生が、2年生の教室へ連れてきて、あたしの膝へ座らして。そんなこともあったけど、(妹は)今1番偉いです。仕事も、バリバリやってます(笑)。

## ■食事—自家製野菜で作られた和食

—子供時代、お食事はどんなものを召し上がっていましたか？

貧しいからそんなたいそうなもんじゃないですけど、お汁ものと、煮材(煮物)とか和え物とか、大皿の料理を母は作っておいて、小皿っていうのがあるでしょ。それで、よそって、食べて、おかわりしたかったら、もうちょっとって感じで。お汁ものは、自分が作っちゃう大根・田芋とかそういうものが入ってた。大体どこのうちもね、お野菜とか、こんにゃくとか、お豆腐なんかも、暮れになったら作ったし。普段は買うけどね。

## ■農業—さつまいも、柿、みかん、ゆず

—Kさんのご両親がやっていた農業について、詳しく教えていただきたいです。

私も子供だったから、大きな田んぼやったら世話もいりませんでしたけど、やっぱこの辺やったら山田、今で言う棚田。そういうところがたくさんあって。山の上で、水を引くのも大変なところで、やってたもんで。機械もちっちゃいし、道もなかったから、大きなコンバインも入らんしね、トラクター大きいのも入らんしね。私も綺麗には覚えてないですけど、苦勞した。今思えば親は偉かったなど。

さつまいもは、山の方の畑に植えといて、ほんで掘って貯蔵、床の下の芋つぼっていうところに、保管しといて、買いに来てくれる人らも結構おったもんで出荷した。いろんなとこの農家さんから集めて、どっかに出す人がおったもんで。

渋柿とかもね。私が小学生の時だから、1960年前後ぐらいかな。自分が忙しいき、そんな取ってまで出荷するようなものをつくっちゃうわけじゃない。ただ、植えちゃうだけやき。柿買いのおじさんとおばさんが採って、「いくらやったき」って言うて。母親がいうには、採った後にね、あの、あれもお金になったわよーって。自分家では、やっぱり干柿もお正月にお供えするにいらし、おやつもないき、2階の軒へずらっとあの干して。今年私3回も失敗したけどね。(気温が)あったかいもんで、カビが来て、私らの子供の時はあっちもこっちもつららがあるば寒い。今温暖化やけど。しもやけもできて、あの手も真っ赤になって、そんな子供時代やったけど、今

そんなことないね。綺麗に干柿を干せたね。子供の頃はね。

山田（棚田）は山の上の方であって、尾根の方の、ちょっと平らっぽくなってる感じで。Nさんのご主人が先生になって、50年代、60年代ぐらいに中山に広まったんですよ、温州みかんが。山田の周辺に植えてありましたね。芋とかそういうのを植えてたところも、結構みかんに。で、収穫できるようになって、で、下火になったのが私が就職しちよった頃、昭和40、45年ぐらい。まだおみかん送ってもらいよったんやけど、なんかある年、ジュースが送られてきて、缶のみかんジュースが。（みかんがジュースに）化けたぞー言うて、ほら安いもんやけみかんが。売れんで。まあ、私もまだ若かったし、そんな詳しいことも聞くこともようせんしよ。それから、もう、いかん、これはねって、みんなやめ出して、それからゆずをみんなが植えたという。父は遅くまで、（みかん栽培に）しがみついちゃったんやけど、山田に、イノシシが出だして、お米がもう作れん状態になって、これは何を作っても、イノシシがいたらダメやっていうことで、もう、お米もついに作れんって。父親も病気で亡くなり、長いこと放ってあったんやけど、もうほうほうで、その田んぼも。けど、私の兄がゆずを植えるっていうことで、ゆずを始めて、今は収穫できるようになってますけど。山田の周りに実生（実生ゆず）をね。その絞った種も自分で蒔いて、あの苗木を起こして、また違うくへ植えるぞっていう風に、そんなにして、育ててしよったんやけどね。今も結構あります。

実生を植えてて、別のところにみかんを植えて、みかんがいかんくなって、ゆずを植えた。何代も、続いていかんわけですよ。何代も続いていったら、立派な木になり、あのお世話すればするほど生るけど、みかんでいかなり、杉でいかなり、ヒノキでいかなりとかね、お茶でいかなりとか、色々うまくいかんですよ。

ゆずは玉で出荷して、JA（農業協同組合）の集荷場に出荷したら、そこで搾汁にして、馬路方面行くのかな。馬路はほら、加工品が多いじゃないですか。色々、ポン酢とか、ゆずジュースとか。で、自分とこで絞るのは、実生の、規格外のもの。お使い物にしたり。親戚に、お酢作って、渡すやつを。余った皮や実は田んぼの縁へ捨てたりとか。たい肥にする人もおる、種は化粧水を作るとか言うて、そんな人もおるけど、綺麗な皮は、ゆずジャム。今日いただいたゆずジャム作ったり、ゆず味噌作ったりするのは、あの綺麗なものは、あの除けますけど、ゆずってゴツゴツしたところもあり、あばたもあり、硬い、ね？ところもある。綺麗なところだけこう取って、ジャムにしたりとかはする。母が馬路出身だったもんでそれで、ゆず味噌も母親が馬路のおばあちゃんが作りよった味を、こっち来て、夜なべして作った。ゆずの皮とか中に入れるの、おじゃこ？昆布？生姜？とかいろんなのが入った、あのゆず味噌いうてもゆずの皮を炊いた、醤油と砂糖とで煮つめして、幾晩もかかって、そんなに簡単にできるもんじゃないきね。ご飯の上のつけておかずに。美味しい。

## ■畜産業——こどもにとって謎の種牛

——農業以外にも、ご兄弟はみんなお手伝いをされてたんですか？

そうですね。ご飯炊いたりとか。兄弟がみんな牛とかヤギとか羊とか飼ってましたので。羊は1頭でしたけどね。毛を刈って、毛糸にした。そういう場所があったらしくて、頼んで毛

糸にして、帰ってきて、近所に編む人がおったもんで、セーターとか、カーデガンとか、編んでもらった。馬路からやったかな。もう近所にね、同じ地区の里の人、毛糸編める人がお嫁に来ちゃって、その人に頼んで。

牛はね、おじいさんが種牛いうでっかいの買って、それから田んぼも鋤かないかん時が、まだ私がちっちゃい時は、トラクターっていうのがなかった時代に、牛でやりゆう時代もあったもんで。2頭ぐらいはあって、いつもその子を産まして、その子を市に出す。そういうことをやって。で、その種牛っていうのは、あの地区の人は牛を連れて、種付けしてまわって。あのうちもうちまで上がって牛連れてくるろうと思うんやったら、子供見られん。おまんだ向こういっちゃり(あなたたち向こうに行つてなさい)って。フフフ。なんでやろねと。フフフ。トラック借りて、トラックに載せて、積んでくれるおんちゃん(おじちゃん)がおって、市の時にはそのおんちゃん家とおて、つれていきよった、畜産組合。私もよく種になんたら、取りに行かされました。父親に、なにやろ、この魔法瓶に入っちゃうもんと思ひながら。アハハハハッ。ヤギはもろうたんやろうね。親戚のおじさんに。乳用で。夕方絞って、布でこして、沸かして。

## ■寒さとの闘い

——昔は結構寒かったんですか。

昭和の30年とか40年ぐらいの頃は結構やっぱちょっと寒くて、渋柿なんかも、綺麗にカビがつかずにできて。しもやけもできて、でもそんなケアどころじゃなかった。足の小指もしもやけで靴が入らん、靴履いたら痛いわ学校行くにはもう。手もふくれて。学校行ったら、雑巾がけもせないかんから、絞るにも痛いしねー。うん。アカギレはできんかったけど、私、こんなぼてっとしたあのシモヤケがね、できて、こうやって握れんぐらいで膨れるんですよ。あ、ちょっと膨れるというかね、シモヤケになるわけです。それは寒かったね。ストーブもなかったからね、薪焚いて、いろりに堀りごたつみたい。で、夜は湯たんぽ。なんとか練炭とかありましたよね。この丸い、圧縮したやつ。そんなんも、ずっと、火起こすしちよいて、それを中に入れて出してとか言って、子供の湯たんぽをもって足元に置いたりとかしてましたけど。冷えてましたけど、寒さしのぎで。ストーブなんてなかったです。

## ■森林鉄道——わんぱくな思い出

——小学生の頃、森林鉄道はまだ走ってましたか？

うん、鉄道乗りました。メガネ橋が綺麗に見えるし、列車も見たし、貨物で材木積んで、出てくる人、おじさんが、材木の上にと上がっちゃうんですよ。よう覚えてます。そのあととどんどんなくなっていく感じです。客車(連絡便)も走ってましたので、それも乗って。母親の実家が馬路やったもんで、別所(安田町の地名)から川を降りて、浅いもんで渡るんですよ。ちょっとスカートめくって、妹と2人で。で渡って、与床(安田町の地名)まで行って。あそこで乗って、で、帰りもおばあちゃんたちがいっぱいお土産置いてくれるもんで、そこへあの郵便のおじさんとかも、知り合いがいっぱい、おばあちゃんの知り合いが馬路の乗っちゃうもんで、ちゃ

んと頼んでくれて、もうこんなに子供がとっても持って帰れんような荷物、もういっぱい、ともろこし袋いっぱいとか、なんだからんだら、もうやっぱ親ですよ。いっぱい起こしてもろうて、おろしてくれて、ほで、それからよう持って帰らんもんで、そこまでは父親が迎えにきてくれたという。そんな、なんか懐かしい思い出です。

## ■川遊び——チチブ釣り

——川遊びなんかもされましたか？

川は、泳いだのと、兄たちが箱みたいながでチチブすくうたりつついたりするから。ゴリっというかね。よそでは。ちっちゃい魚。そんなを、あの眼鏡で取ったりとか。煮つけて鶏にやったりとか、自分たちでは食べなかったけど、うん。食べるんは今やったら大好きやけど、ショウガと、ミリンと、お醤油とかちょっとつけるとか。あの、圧力鍋っていうのがあって、骨まで柔らかく食べれるように、煮つけれるかね。今やったらね。

## ■就職——仕事と学業の両立

——仕事は何をされましたか？

就職はどうしてもやっぱり自立したいっていう気持ちがあって、勉強も嫌いっていうのもあったし、兄弟もたくさんいたし、自分で早く自立して働きたいっていう気持ちで。親は随分反対しましたが、中卒で、昼間に学校へ行って夕方仕事するという会社がありましたので、会社は別々でしたけど中学時代の友達と一緒に入社することになって。早くから、社会人になりました、ま、家にも仕送りもしたかったし、いい経験やなと今やったら思うけど、親はなんぼか人にも言われたみたいで、高校ば行かさい（ない）でとか言うて、けど、あえて私は出ました（笑）。三重県の繊維会社に就職して、その会社の中に学校もあって、寮生活で4年学校で、普通科と家政科とあって、みんなそうやって勉強して、いろんなこと。勉強してお金もらって、結構みんながんばり屋さんばかり、結構よそのひと、東北の人とか九州とかね、多かったね。お友達もいっぱいできたけど、こっち帰ってきてからはよう会ってないけどね。んで8年ぐらい勤めて、帰ろうかな、もう帰らんとこうかなと思ったけど、何のきっかけやったか、ま、帰って帰ろうかなと思って、帰ってきて。

## ■結婚——出会いと結婚式

——地元に戻ってきた後はどうされましたか？

23歳の時に帰ってきて、役場へ臨時でちょっとお仕事しに行きよって、安田の青年部の人たちとか。バレーとかバレーボールとか、いろんな催し物とかの率先して、そういうサークルみたいな。そないする人らがおって、まあ役場行きよったし、ちょっと行ってみん？言うて、誘われて、自分は入るつもりはなかったけど、まあ見に行ったりしよって、その中におった1人とまあ結婚してしもうて（笑）。24歳か。ふるさと祭りなんかで活動して、年に1回のこと

やきね。それで仲良くなったね。そんなのがなくても、私が役場行きよったき、あのバス停、まだ車運転持ってなかったもんで、バス停で待ちよったら、ちょうど来て荷物積んでいってくれたりとか、中山まで（笑）。

んで、結婚して。私は実家がこっちやき結婚してからは安田で借家して、子供も生まれて、それから子供が学校行くようになって、住宅のすぐ上に町営住宅が新しくできた言うて、そこへ引っ越してきて。でもどうしても家が立てたいということで、今建てたお家は、実家の田んぼがあったところを、分けてもらって、建てちゅうがです（笑）。

結婚式は、一応して、衣装は、白い角隠しやけど、着物は内掛け着て、文欽高島田っていう髪型やった。まあ、私らの時は実家で着せてもらって、私の親戚は、私の実家で準備して、で、安田の役場の近くに八幡様があるもんで、そこで式をしちよいて、披露宴は、お隣の公民館でやったね。お友達とか来てもらって。こっちの習慣では、一応花嫁道具は、男の人のところへ1回は持っていて、お披露目するもんやっていうしきたりがあったもんで。ま、持っていかないかんもんやと思って持って行ったがですけど、今思うたらありがた迷惑なことやったがよね（笑）。借家しちゅうところへ入れたらええことやったがやけんどね、今やったらそうする。

結納とかも一応した。仲人さん立ててもらって。私たちの場合は、近所の近しいおじさんがしてくれたね、主人の近くの家の近くの人やった。

結婚式のお料理は、普通に、土佐のお刺身と、おさちの盛り合わせ、土佐の皿鉢料理、そんなもん。ほとんどがそれ。ほとんどというか、全部がそれ。

## ■ 1960～70年代の家電状況

——結婚された時、テレビや洗濯機などの家電ってありましたか？

はい。結婚した時、家電は全部買っていきました。嫁が買っていきました。結納金では足りませんでした。足りませんでした（笑）。洗濯機は、二層式やなくて自動やったと思います。テレビも、カラーテレビやね。

電気系の家電が来たのは子供の時やね、実家の時におるときやね。ラジオは早くからあって、結構小さい頃に、ラジオは聞きよったね。それと、テレビは小学校の低学年やったと思いますけど、お試しで、実家のすぐ下の母屋のお家にテレビを1つ、お試しにおいてくれゆうて電気屋さんが言ってきたと思うんですよ。それをみんなでわーって言って、見せてもらって、うちも欲しい、うちも欲しい言うて。もう古い白黒やって。で、私が就職から帰ってきて、カラーテレビをプレゼントしました。

### 【聞き手の感想】

私は、ゆったりとした時間が流れ、自然と食文化が豊かな中芸地域の雰囲気が好きであったことから実習に参加しました。今回、中芸地域に訪問するのは三度目で、インタビューを行うのは初めてでしたが、とてもよい経験になりました。とくにそれを感じたのは、インタビューで、ミエさんが、自分と全く異なる生活・人生を送られていることを聞いた時です。子供時代、スマートフォンやゲーム機などはなく、学校がないときは遊ぶこともなく、家業（農家）のお

手伝いをずっとしていたとおっしゃっていました。自分が「当たり前」と感じていることが当たり前ではないという事実をひしひしと感じ、自分の世界に対する認知を改めることができました。また、森林鉄道やゆず、温州みかんに関する語りを得ることができたため、今まで広報誌や広告でしか知りえなかった中芸地域の歴史について、より多角的・現実的に理解することができました。中芸地域の歴史や背景知識を踏まえ、ライフヒストリー分析も行えたらいいなと思いました。

## ぶっつけ本番よ —— キヨミさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・2回生

中村 沢

### ■ 生い立ち

インタビューに答えてくださったキヨミさんの生い立ちをご紹介します。

キヨミさんの歳は、82歳。昭和15年3月28日生まれ。高知県安田町中山の与床という部落の服部というところで生まれた。両親は炭焼きを本職としていた。実家では、お米と黒砂糖（サトウキビ）も作っていた。21歳で結婚して、25歳のときに息子が生まれました。7人兄弟の末っ子。兄と姉が3人ずついる。

中学校を卒業してからは服部の実家で百姓の手伝いをしていた。農業をやっていない6月から10月まで、唐浜という安田の町まで和裁を習いに行っちゃった。自転車乗って毎日、30～40分はかかるろねー。地面が凍っていたときはガラスの中へタイヤ漕いだらこけるがね、舗装してないし、なかなか乗りにくかったきにね、あれ乗ってこけた時もある、何回も。

20歳になったら森林鉄道の連絡所で働いていた。安田と馬路を行き来する汽車の連絡係を務めた。

21歳で結婚。嫁入り道具として、親が洗濯機を買ってくれたという。旦那はお父さん方のふたいとこ。うちらはみんな親戚同士が引っ付いちゅうが。旦那は両親がおらだった（いなかった）から、旦那の妹2人も一緒に暮らした。その時、妹が小学校6年生と3年生やった。結婚してからは百姓して、妹たちの世話もして、大変やった。百姓としては、お米とみかんを作っていた。自分も一生懸命働いて、縫製工場行きよって、その後60歳まで土佐鶴行ってね、今の息子を大学にまでやった。

### ■ 子どものころの思い出

#### ○ 兄と山や川で遊んだ幼少期

幼少期はお兄さんと山や川で遊ぶことが多かったという。

上の兄貴が休みの日に山や川へ連れてってくれてね。兄貴が小学生ばあ、うちが幼稚ばあのころ。川をせいたら水がこんなるきね、そこへ石をのけて、石の下に隠れているチチブを押さえてね。兄貴がそうやってよう遊んでくれた。山へ行ったら、「こぼてい」があったがね。綺麗に鳥が入るような家をしかけとして木で作って、鳥が入ったらパンっとはじいて、遊んでた。その中へはエサを入れちゃかないかんがよね。赤い実らを取ってきてね、南天の桃らを入れて。カゴは柴で作った、兄貴がそういうの好きやったき、そうやって遊んでくれた。ほんで、山の坂へ行ったら、遊ぶもんがないき、柴を切って、腰に付けて、山からズーッと滑って遊んだね。ほんなら、帰ってきたら親に叱られてねえ、フッフ。捕まえた鳥はね、焼いてね、ほれから醬

油砂糖の中へ入れて、味付けて食べさせてくれた。香ばしかったで。

### ○姉の散髪

幼少期、散髪は、お姉さんにやってもらっていたという。

子どものとき、散髪は姉がしてくれよかった。小さかったき、頭に汁じゃわんをかぶせてね、綺麗に髪を整えてくれた。最近までね、姉が生きちよったきにね、それ言うて笑おうたことがある。髪をそろえてつんでくれたこと覚えちゅうわ。家の外でやりよかった。

### ○動物との生活

実家では、ニワトリとヤギを飼っていたそう。

家の外ではニワトリをね、5、6羽飼うてね、卵もほら、買うたりせらだったきね、うちでニワトリ飼うてね、それを食べたわけ。放し飼い。広いきにね、動いて、運動しよって、こんなウンコするわけよ。ほんで学校から帰ってきたら、そのウンコ拾わないかん。汚いき。それが小さい頃の仕事やった。ニワトリが卵産まんになったら、食べさせてくれたろうね。卵焼きとか、味噌汁放り込んでくれたりね。ヤギも飼うたわ。ヤギは乳絞ってね、牛乳の代わりよね。今おる一番上の兄貴がね、係りやったきね、ようヤギの乳を絞ってね、それを沸かしてもろうてね、飲んだ覚えがある。

### ○両親は百姓と炭焼き

ご両親は本職を炭焼きとし、家では百姓をしていたという。

両親は百姓でお米を作ってた。黒砂糖の木（サトウキビ）も作ってね。大野へ持っていったらね、絞ってくれてね。ほんなこともしたね。そばも作ったりね。色々作りよった。ほんで、炭焼きが本職。両親は炭焼きしよった。炭もね、中山はみな作ってね、評判が良かったきね。炭焼いて、米作って、色々作って。へへへへへ。育ててくれたわね。

### ○おやつはイモ

おやつにイモをよく食べていたというキヨミさん。

家でおかしとか食べたりはあんまりなかったね。兄貴が、普通のイモの皮を剥いでね、中へ穴をあけて、わらを通して、それを母親がつるしてくれた。その乾いたイモを兄貴が煮いて、小豆を入れて、つぶして団子にして食べさせてくれたことは覚えちゅう。家に炭があるきにね、コンロで煮いてくれてね、兄貴、案外こまめでね、そうやって食べさせてくれた。

### ○草履で通った小学校

キヨミさんは、小学生の頃、草履で通学していたという。

うちら小学校のときにはね、履物は草履やった。草履でね、向こうから、向こうやきね、家が、ずーっとこの鉄、今のこの道、ずーっと歩いて、そこのじねん、のところに学校があった。あれまで草履で歩いて、通った学校へ。歩いたら半時間ばあかからせやった。冬わね、草履で霜柱歩いたらね、草履が湿ってね、寒くてねー。靴下はよう履かんかった、濡れるきにね。

みんながそうやったもんね、みんなが草履。

## ■中学卒業後の生活

### ○森林鉄道の連絡所

キヨミさんは、森林鉄道の連絡所で働いたことがあるという。

森林鉄道の連絡所が前にあったとき、営林署の人に声かけられて20歳ごろ、連絡所で働き始めた。朝7時半ごろ行って、夕方の16時ごろまで、2年ばあしたやろうかね。やり方勉強したりはないない、ぶっつけ本番。家やったら黒電話の番号があるけんどね、連絡所では番号なしでね、長く回して、短く回して、で連絡所が決まってね。長くやって短くやって長くやったら馬路。ほれから、短くやって長くやって短くやったら安田ね。そうやって回してね、連絡所に繋げてた。「今からこういう汽車が行きますが構いませんか？」って連絡を取らないかん。帳面ら全部くれるきね、それ付けていく。お給料は7000円ばあやったらろうか。ここほら、なんにもなかったとき、客つんでね、森林鉄道の材木が乗って。人の命預かるきにね、怖い仕事やね。でも行き来のジリジリって連絡する以外は仕事がないから、ずっと座ってた。いつ連絡がかかってくるかわからんきにね。

### ○米つきの入れ替え

森林鉄道の仕事の一つに米つきの入れ替えがあったという。

米つきの入れ替えも、連絡所の仕事じゃった。昔は米つきもなかったときに、水車の米つきやった。米の中にネズミが入っちゃうときびっくりしたね。ネズミが米を食べようと思って入っちゃうがよね、それで水車で打たれちゃうがよね。それはもう食えんかった。

### ○結婚式

ふたいとこの旦那さんと結婚されたキヨミさんの結婚式についてお聞きした。

田舎の結婚式いうたらね、ちゃんと白いあれ（角隠し）を被って、きれいに着せてもろうて、みんながおきやくしてくれた。化粧は髪結いさんを雇って、家に来てもらってしてもらった。

## 【聞き手の感想】

私は、森林鉄道に関する仕事というとなんとなく男性を思い浮かべてしまっていた。しかし、今回、キヨミさんが森林鉄道の連絡所でお仕事をされていたという話を聞き、その仕事の多くを女性が担っていたということを知ることができた。キヨミさんが勤められていた連絡係は、講習会や勉強会などなく、仕事がぶっつけ本番だったということに驚いた。さらに、番号ではなく黒電話のハンドルを回す長さで連絡先が決まるという仕組みがあったことも初めて知った。お客さんと材木を乗せ、森林鉄道の移動を支えたキヨミさんの語りからは誇らしさも感じられた。

お兄さんと山や川での遊びについて話を聞く中で、その情景が鮮明に浮かんできた。当時の

状況や心情について詳しく記憶されていたことから、キヨミさんの中で、それが楽しい大切な思い出であることが伝わってきた。他にも、お兄さんがイモの団子を作っている過程の語りや、乳しぼりをしてヤギ乳を沸かしてくれていた語りなどから、当時、お兄さんの様子をよく観察されていたことや、お兄さんを慕う気持ちが伝わってきて、とても温かい気持ちになった。

お姉さんにおわんを使って散髪をしてもらったという話も興味深かった。髪の毛を整えて切るのにおわんを使うというような、今の私たちには思い浮かばないような知恵が当時の人にはあったのだなと思った。自分の身の回りにあるものを生かす力がすごいなと思った。そのような姿勢をキヨミさんの語りから学ぶことができた。

旦那さんがふたいとこであるという点も印象に残っている。そして、旦那さんの妹さん2人のお世話をしながらの結婚生活を過ごされたと聞き、それを乗り越えたキヨミさんはすごいなと思った。

昔は百姓をしていた人が多かったので、「百姓生活」はどの家庭も似ているものだと、これまで思い込んでいた。しかし、キヨミさんの語りを通して、同じ百姓であっても、そこには個別の生活があり、それらを残していくことには大きな意味があるということを実感させられた。今回、特に幼少期について詳しくお聞きすることができたが、結婚後の家庭生活について聞きそびれてしまった点がいくつかある。結婚後について、キヨミさんは「貧乏百姓」だったと繰り返しおっしゃっていたが、そこにも「貧乏百姓」とはまたちがった個別の生活があることだと思う。また機会があればお聞きしたい。

# 安田町中山に移住して

## —— トミコさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・2年生

笠原 里穂

### ■トミコさんの紹介

トミコさんは、昭和24年10月16日生まれの73歳。出身は福井県大野市。高校卒業後は愛知県のバレーボールの実業団チームに所属しながら働く。2016年に旦那さんの実家である高知県安田町中山に移住する。現在、安田町に住み始めて7年目となる。

### ■福井県での子供のころの生活

#### ○雪国ならではの遊び

私が住んでいた福井県は冬になるとすごく雪が降ってね。友達と雪だるま作ったり、かまくら作ったりしよったね。かまくらは、想像の家を足で踏み固めて、そこに部屋を作って、テーブルを作って、ていう風にして作りよった。これ全部雪でできた。学校に行くくでも、スキーを履いていく人もいたからね。学校の休み時間は暖房もないからみんなでおしくらまんじゅうしたり、掛馬っていう遊びをした。掛馬っていうのは、眼の人の足の間に頭を入れて馬を作って、それを何人も重ねて飛んでいくという馬飛びみたいな遊び。とにかく寒かったから、あったかくなる方法をみんなで考えるわけよ。その分夏はエアコンもなかったけど快適に過ごしてたね。

#### ○朝市で食材を買っていた

私が住んでいた大野市には朝市があって、野菜とかお魚とかはほとんど朝市で買いよったね。朝市は道路沿いにあるって、道沿いに偶数の日はこっち、奇数の日はこっちっていう風に場所が変わるの。それで、朝市をやってない方の道路で買ったものを食べれるようなところもあったね。だいたい朝の5時半くらいから9時ごろまでやってて、泥がついたままの大根、白菜、ねぎ。あとは夏になったらトマトだったり、オクラだったり、あるようなものはだいたい売られよった。「今日はあれがおいしいよ」「今日の朝とってきたがで」って言って持ってくるわね。野菜のほかにも日本海で取れた魚とかカニ、干物も売られよった。

私の家の近所のおばさんが、朝の6時くらいに私の家に寄って、朝市に持って行く野菜とかを「いらんかねー？」と言うて売りに来てくれよったね。特に私はカニが好きで、おやつによく食べよった。カニって言うても大きいカニじゃなくてセイコガニっていう小さい卵をいっぱい持ってるやつで、当時は100円くらいで売ってた。それをおばさんが発泡スチロールで作ったクーラーボックスみたいなものに入れて背負って持ってくるわけよ。私は朝市でそれを買に行くのが楽しみでね、朝起きてこなかったら、母に、「起きられないなら朝市行けないよ」って

よく言われよった。

朝市で買えないお肉とかお豆腐とかほかの食材は、近所にあるお豆腐屋さんで買った。そのお豆腐屋さんは豆腐だけじゃなくてなんでも売ってて、スーパーなんか行かなくても、そこと朝市で十分だった。

買った食材は、かまくら作って、下に土があるそこに埋めておいて保存しよった。そうしたら長持ちするのよ。寒い時にはアイスクリーム作って、雪持ってきて、雪の中に塩入れてアイスクリームを入れたりしよったね。

## ■高校時代

### ○バレーボールにささげた青春

高校は福井農林高校に行った。けど、農業をしに行っただけじゃなくて、バレーボールをしに行っただけ。バレーボールが強かったもんだから、その高校に行ったらインターハイとか国体に出れるよって言われてそこに行ったね。練習は朝練もして、そっから授業を受けて、夕方の4時から9時まで練習しよったね。寮に入ってたからいったん家に帰って、ご飯食べてからやりよった。遠征とかにもよく行った。でもそのお金は強化選手やったもんだから学校の寄付みたいなのがあって自分たちは一銭も出さなかった。ユニフォームとかシューズとかも。

部活は、まあきつかったね。昔だから殴られようが何されようが今でいうパワハラみたいなもの当たり前みたいな状態だったからね。おかげでインターハイ行ったり、国体行ったりできたけどね。あとは水も飲んじゃいかんって言われたね。だから隠れて飲みよった。「顔洗います」って言いながら水飲みよった。練習の合間に水飲むなんてとんでもない、プール入る、とんでもない。そういう状態やったね。

## ■社会人時代

### ○重要な仕事は任されなかった

バレーをするために、高校を卒業してから、愛知県岡崎市の日清紡績ってところで働き始めた。高校時代にずっとそこで合宿をしていて、合宿を続けるためには誰かがそこに行かなきゃいなくて。私はそこに就職するつもりはなかったけど、先生に、「お前はそこに就職決まり」って言われて。

働き始めて最初は工場みたいなところに見習いで入ってたんだけど、うまいことバレーと仕事の調整が出来るように会社の中にある診療所の受付の仕事をしよった。いつ仕事を抜けてもいいように。3時くらいからはもう練習してたね。他にも試合があって全国だから、もうすぐ「いつからいなくなりますか？」って聞かれて、フフフ、何時に出ますっていうとそこでもう仕事ストップして、なんか重要な仕事を人に任せないかん。重要な仕事なんて任されることなかったけどね！

## ■安田での暮らし

### ○安田町に移住

安田町には2016年に引っ越してきた。主人のお母さんが安田町に一人で住んで、お義母さんはもう私が来る時は90からそこらであんまり身体もよくないからって言って、こっち来たんだけど、主人に騙されたみたいなのやねえ、ハハハ。主人は次男坊だから帰らなくてもいいだろうと思ってたんだけど、兄さんが亡くなり、お義母さんが一人になるもんだからどうする？ってなって、お義母さんも一人で大変だから帰る？ってなって、帰れるの？行けるの？って言われた。そりゃ行くまでにバレーもやめるわけだからいろいろ手続きが大変でめんどくさいけどやめてこっちに帰ってくるようになった。

こっち来て最初のうちは言葉もわからないし、でも年に一回ずつくらいは帰ってきてたから近所の人たちは知ってたし、周りの人も知ってる人が多かったから割とかわいがってもらってたかな。お義母さんはあんまり身体がよくなって、介護5でしばらく世話してたんだけど、施設に入れるってことで施設に入って、ついこないだ亡くなったところですよ。104歳でした。だからそれまで安田に来てからは主人の病気だとか、何とか色々あったから今一番落ち着いてるかな。

### ○虫が一番怖い

安田に住み始めて畑仕事をし始めたんだけど、畑仕事してるとものすごく虫が出てくる。ふつといみみズとか、大きなクモとか、ムカデとか。見たことなかったから逃げ回ってたんだけど、そういうわけにもいなくて、主人に「ちょっと来てー！」って。ハハハ。

うちに畑がいっぱいあったから畑仕事を始めたんだけど、草むしりが大変で、嫌で嫌でたまらんね。草むしりなんてやったこともなかったから、なんで草むしりなんかしないといけないのって言いながらやってたの。でも一応食べるもの、自分が食べたいものだけ。まあ、白菜とか、大根と、レタスと、キャベツと、ねぎ、ナス、夏はスイカ、それだけは植えたいなと思って、それだけ植えてる。

### ○動物に食べられてしまう

育ててるスイカがもっとなってほしいんだけど、その前に獣が来て取られちゃう。狸も来たし、アナグマも来た。それがきれいに食べてあるの！蓋をしてても蓋を取って食べられる。人間かもしれんっていうぐらい取られるからあんまりやね。でも罠をかけたら結構かかるみたいで。狸は2回くらいとれたね。でも取れた後が始末に困る。だからもう罠はかけたくない。誰かに頼まないとよう処分せんもん。

一回、罠に餌を猫がかかっててかわいそうやったね。さすがに猫はすっと逃がしてあげるわね。命からがらよ。

### ○アユ

こっちのアユはやっぱりおいしいね。今まで食べてたアユはやっぱり養殖だったんだって。

こっち帰ってくるとおいしさが違うなって。匂いから違う。なんぼでも食べれるね。あっち(愛知県)で食べるのはやっぱり臭い。あんまりおいしくない。それに、夏になったら主人の友達がアユをいっぱい持ってきてくれるね。いっぱい食べさせてもらえる。自分で釣ったりしているがあるけど、うちはやらないからね。夏にもらったアユを少しづつ冷凍しちよって、煮物、甘露煮みたいにしたたり、私の母親がまだ実家に一人にいるからそっちに送ってあげたりしてる。

こっち来てからアユの食べ方も教えてもらった。あの、教えてもらって作るわけじゃないけど、アユのお寿司。そんなんにして教えてもらった。自分ではようさばけんけど、手伝いに行ったり。それで私がこっちに来てから老人会があって、そこに行くといろんな料理教えてくれるわけよ。そこで自分が出来そうなのをピックアップして家で作ってる。佃煮とかこんにゃく煮たやつとかそういうの。作るからおいでって声もかけてくれるしね。楽しかった。

### ○柚の酢

柚の酢はこっち来てからよく使うようになったね。お義母さんが元気なうちは名古屋の方に送ってくれよったけど、使い方がよく分からなかった。でも、安田に来てこころ辺の人は皆何でも使うね。お寿司作ってもそうだし、ジャコ食べるのも。何するにも柚の酢使うからこっち来たらずう使うようになったね。

家においでる柚の酢は、東島におる主人の妹が作ってくれたやつでね。絞って持ってきてくれて。だいたいそれが一年に一升瓶を一本くらいかな。一年でちょうど使っちゃう。柚子取るのが10月の終わりくらいだから11月くらいに持ってきてくれるね。

私はおジャコが好きだからおジャコにタポタポかけたり、すし酢にも使って、酢を利かせるのが好きで、だからうちで作るのは結構酸っぱい。あとは、お刺身とか、酢の物、鍋とか結構何でも使ってるね。もらったら、小さく分けて冷凍して使ったり。そうするとね、きれいなままなの。そのまま置いておくと茶色くなっちゃうから汚い色になっちゃうから、冷凍して保存しておく。

### ○イタドリ

イタドリは子どものころは全く食べてなかったけど、お義母さんが取ってきたのを送ってもらったときに初めて食べたかな。名古屋に送ってきてくれた時、イタドリを煮物にしたんだけど、煮すぎてトロトロに溶けちゃって。なんじゃこれ！おいしくない！って思って。ハハハ。なんでも煮たらいいかなって思ってたけど、「煮ちゃいかんのだよ」って言われた。こっち来てから処理の仕方とか、料理の仕方を教えてもらっておいしく食べれるようになった。

### ○のんびりと時間が過ぎていくのが今の幸せ

安田町は確かに不便やね。交通機関がないとかってそういうのは不便。なんだけど、のんびり過ごせるのがいいかなって思う。買い物行くにも、病院行くにも不便さはいっぱいあるんだけどそれもなんか補えるような自然の豊かさのような。のんびりと時間が過ぎていくのは今はすごい幸せやなって。フフフ。

## 【聞き手の感想】

トミコさんは、7年前に安田町に移住してきたということで、安田で暮らし始めて思ったことや体験したことを聞くことが出来た。安田町での暮らしは不便だけどのんびりと過ごすのが幸せという言葉が印象に残った。さらに、安田町に移住してから地域の人々に誘ってもらって、料理を教えてもらい可愛がってもらえたとおっしゃっていて、中山の人達はあったかくて、またトミコさんの人柄の良さからも新しい土地に来てもすぐになじめたのだと思う。

トミコさんは福井県出身で、雪国ならではの話を聞いたことも興味深かった。私が生まれ育った高知県は雪が降ることは珍しいことのため、雪が身近にあったトミコさんに、普段の雪国での遊びの話を聞いたことで、高知県と対比させて聞くことが出来た。

「最近こっちに来たから話すことなんてない」と言いながらも、幼少期の話からバレーボールのこと、安田町に来てからの話と様々な話を終始、にこやかにしてくださった。感謝申し上げます。

## お手伝いとしての農業から現在に至るまで —— テルコさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・2回生

松本 明梨

テルコさんは昭和 17 年に高知県幡多郡大方町入野に生まれる。現在は幡多郡黒潮町といわれる場所にあたる。昭和 38 年の結婚を機にご主人の仕事の関係で安田町へ嫁ぐことになった。現在もそこに住む。

### ■父親の農業のお手伝い

テルコさんは入野に 7 人兄弟の 6 番目に生まれた。父親はヨシキチさんというお名前で、テルコさんは父親の仕事は百姓一本だったと語った。栽培したものはコメやサトウキビ、タバコであったと語られた。以下にテルコさんが子供の頃に主にお手伝いした当時のエピソードを記述する。

#### ○最初に記憶しているお手伝い

お米とサトウキビとね。ほんで私たちが小学生ばあになったときは、タバコを作っていました。ちっちゃいながらにお手伝いに行ってね。タバコの土寄せするときにね。葉っぱがあの土かからんようにね。鎌をこう縄で巻いてよね。切れんようにね。葉っぱをすっところこうこっちの反対の溝へ折ってこうやってね。こう、土を返す。

#### ○タニシをとるがね楽しくて楽しくてね

お米のお手伝いもしたね。したかせんか記憶に薄いけどね。お天気がええ日を見計ろうてね。田んぼ一面刈って干すがよ。束ねてあの持ちるんよう束ねんけん。束ねたがをそのさかの端までひっこずって行ってよ。掛ける準備したような記憶がある。そのときにね、トラックもなし。あの馬で運んだりしよったんよ。そんで馬へ乗って。荷がないときは馬へ乗って戻ったりしたことがある。馬飼いよった。

その稲刈った後でね。足跡が付くやろ。ほいたら今みたいに農業全然使わん時代やけんね。タニシがいっぱいおるのよね。そのタニシをね。とるががね楽しくて楽しくてね。大きな籠持って行ってね。ほんとタニシを集めてよ。あの煮てよ。こう殻から抜いて兄嫁さんがちゃんと作ったり煮して。

ちゃんと湯がいてよね。あのなんていうの。まいご。今のまいごみたいなもんよね。おいしかったね。甘かったね。その黒砂糖があるけんね。

タニシがこうよってくるのよね。その水めがけてね。足跡の跡へね。それを集めるががあたしたちのちっちゃい時のなんていうか思い出ね。

## 【サトウギ】

タニシの味付けについて、テルコさんは甘かったと語る。そこで、サトウキビを育てていたことについてまとめる。家の隣に砂糖を蜜にする工場があり、納屋があったという。テルコさんは、サトウキビは当時「サトウギ」といわれていたと話した。以下ではサトウギと記述する。子供の時分はね。かじったらね。十分歯もよかったしね。甘みも感じた。自分の隣の家がそういう工場の隣やったろ？ んであるの。なんていうの。固まるまでの砂糖をなんていうか。やわらかいときよくもろおて食べたね。

うちの納屋を利用して。検査受けるまでずっとおいちよったき。あのまゝ検査受けにゃいけんけんど。兄嫁さんが言うにはこんな桶へね。自家製としてね。兄嫁さんが妊娠して凄くなんていうか食べるもんがあれん時そのお砂糖盗んで食べたりって話。蔵へあるがをね。蔵へはまっちゅう黒砂糖を盗んで食べたゆう。

下の方を、枯れてくるけん。あれをね。少しだけね。剥いだような気がする。大きくなって収穫する前なったら下の葉っぱ枯れて、枯れてほんでその下っ端をこうちょっと。どれほどやったか記憶ないけんど。ちっとう手の届く当たりを。

## ■小学校での日常生活

テルコさんは入野小学校を卒業後、大方中学校へ入学した。その後幡多農業高校へ進学された。農業高校では家庭科に所属した。高校は2年通って卒業され、大阪の住吉の洋裁学校を2年間通われた。

### ○一番上の兄との思い出

2クラスあってね。当時40人ばあおったと思ったけんね。大方でね何校かあるがよ。一番大きい学校でした。大方中学校は5クラス。そこから全部中学校なったら来て。

それがね。私ね。ちっちゃいときね。小学校入るまではね弱かったって。弱かったらしいです。ほんでね。雨が降ったらね、長男がねおぶって学校連れてった言うてた。家で百姓しゅう一番上の。

背中へあれしたがはないけどね。小学校1年のときね。学芸会があつてね。綺麗に着物着ちゅうのよ。それをね父やなくてその兄と一緒に写真とっちゅうがね。自分の子でもないのに。学芸会の帰りに撮ったゆうがあるがね。よくしてもろうたんやなと思います。その兄に。歳離れちゅうけん自分の子供みたいに思ったんじゃない？

### ○小学生の頃の遊び——遊びがてらの貝拾い

遊びについて、「入野だと海が近いじゃないですか？ 海に子供たちが遊びに行くとかってことはあるんですか？」という質問に対して、以下にエピソードを述べる。

貝がおるがよ。その砂浜やけんどの自分らノウナシってゆうたけど。アサリみたいな貝ね。遊びがてら。行ったときに海が寄せたり引いたりしてるうちにずっと現れるのよ。ずっと面白がってそれをとったりするような。それからシジミもおったよ。あの浜やなくて川と海の間

のところの。そこへはよくシジミをとりに遊びがてら行ったね。とってきたら親は喜ぶし。

## ■お嫁入りの話

テルコさんは、大阪の洋裁学校にいるときに20歳を迎えた。結婚されたのも20歳の時である。テルコさんのご両親と結婚相手側のご両親で結婚の話が進んでいたという。ご主人の名前はケンさんというお名前がよく仕事をする人であったという。お二人は同じ入野出身でご近所であった。果樹指導員として安田町に就職し、働いていたケンさんのもとへテルコさんは嫁入りしたという流れだ。

### ○ご近所同士で結婚することになったきっかけ

今の人らみたいに。勝手にあれやなくて。家庭の事情でよね。それもお父さんの郷がすぐ近所なんです。親同士がお互いの。子供の気性も分かり、家庭の環境も分かり、あの一番いったらええがって言うようなねえ。ほんでそれとうんと主人が仕事する人やったがね。手伝う姿を見て。あの、ケンっていう名前。ケンは仕事しやけにもうむこうはよね。あの安田町来て酒ばかり飲んで向こうの親がゆうがで。あの体も壊すし、お嫁さんはよ貰わさないかんゆうて。ゆうたら親同士があれなって。一番仕事するところにあのうちの親が惹かれたそうです。

20歳になったけん昔の人いうたらね。嫁入りしなせないかん。そういう話が両方があれんなって。姉の家へね。そのちっちゃいときうちらが遊びに行ったゆうあれにね。あの。私をくれんろうかって向こうの父がお父さんが言うていったけどね。姉も自分じゃあね。そんな話をね返事をするのできんけん。人をたてていじゃってくれてゆうてあの。すぐそれも兄の友達区長さんしよってね。集落の。それも同じ部落ながよ。仲人さんがね。その人が来て結婚することに上手いこと話があれで。そんな結婚やった。

### ○中山に嫁ぐことになったきっかけ

主人が安田町へ就職しちよったけん。一番最初所属されたのが農業委員会ゆってね。県会議員さんがあの町長やめたか町長ばあなったときかな。あの。みかんがんとあれするときやってね。果樹指導員で入って来たゆうた。

やっぱり奥（入野）の方が生活しよかったしよ。けんど当時のねきよかさんゆう家長がすっごく良くしてくれてね。お風呂も入りに来い。ご飯も食べに来いゆうて。しよっちゆうお父さんら酒飲みやけん給料つこうてしもうてないときにはかえってくるときにはその家長がちゃんと立て替えてくれてね。そんなうんと面倒見のいい家長さんやったきね。そんな状況で安田へおるときにはお世話になりました。

## ■安田におけるユズの始まりから現在のユズ

中山に嫁がれてから、ユズの始まりとそれ以前の温州みかんについて。ユズが盛んでなかったころユノスはあったのか。ユノスについてエピソードをまとめる。最後にテルコさんがユズ

を育てていることについて収穫期や収穫後のスケジュールを質問した。

### ○昭和40年くらいのユズ

そんなときはほんとなかったね。40年ぐらいにはね。あの主人が37年来てね。あの温州みかんを植えらしてね。ほんと温州がものすごいうんとはやってね。温州みかんばかりやったんやけど、すごいき暴落してそれで食べていけんがでユズに変えたんよね。

温州みかんばかりでした。みんなが開拓したりなんだりしてね。山の斜面とかね。当時は田んぼへは温州は、植えだったね（植えなかった）。温州みかんてすぐなるきね。あれ2、3年したらね。ユズの今みたいな普通の今の接木しゅうみたいなゆうのの木は全然なかったです。

### ○家にユズがなかった時代のユノス

ユズの一升瓶はない。そんなものないです。イベントで使うがはあの実生のユズを持ってきて。

家々にもよると思うんけどね。婦人部の時にね、あの中山の味っていがを作らないかんけんね。もう、このお酢の量をね統合しようってね。ほんでイベントらで使うときにゃそのお酢2合やったら真酢1合とかいうが決めてね。あたしらもそれちゃんと控えて。なんかのイベントときにゃするけど、家庭で使う時には。みんなでイベントする時にはその味を変えたらいろいろなるき統一しよういうがで。

### ○ユズの収穫

人雇おて、あの肥料やったり消毒したりする時には。肥料はよくせんけど。消毒するときにはね、あの樹木の道具もあわせてもろおてこうやってかけるばあで。消毒にも行くしね。採るときも下で二度切りせにゃいかんきね。ユズは。二度切りして。

あれ（収穫後）も作業があるのよね。追い肥したじゃあ消毒したじゃあゆうて。何回か。ほんで月にいっぺんくらいばあね。今ねほんで雇うちゅう人がね。あの剪定をしてくれゆうが。土地欲しいゆう芽がいっぱい。あれが少なかったけんね。芽が出ちゅうしね。あの自分じゃわからんしあたしにせらしたらどれもこれも切ってしまうけんいかんゆうて。雇うちゅう人がずっとまってってくれよります。

朝はユズ採るときには5時ぐらいに起きよりました。7時には田んぼ行きよったけんあの人。雇うちゅう人が6時半頃来るのよ。弁当持ってって。あのうち来ちゅう人がよね10時（中休み）を、他の人がね10時（中休み）をしたり昼休みしたりするけんどね。その人がね10時（中休み）も昼休みもせんきね。3時に私もう自分もようおらんけん2時頃から帰る支度してあの、おこおこおこゆうて近ごろ慣れてくれて3時にもちゅう。7時ぐらいにはもう寝ちゅうね。

じゃないとき（収穫期以外のとき）は草刈りは1日2時間ばかしかせんしよね。何日も行くのよ。今日も行っちゃったで。2時間ばあづつ。

## 【聞き手の感想】

今回、私は直接テルコさんにインタビューすることができなかったが録音データを何度も聞きなおすと、テルコさんが楽しそうに話している場面や笑いがあふれるエピソードが強く伝わってきた。

テルコさんの子供の頃のお手伝いの話の中でタニシをとるのが楽しかった語りは、印象的だった。稲作の手伝いの記憶はあまりないと言っていたが、タニシをとっていたことを思い出したように話しているテルコさんは明るく楽しそうに話していた。田んぼのぬかるんだ足跡にタニシが集まり、それを捕まえて籠に入れて家に持って帰って料理してもらって食べる。稲作のお手伝いの話がこのような意外なエピソードにつながっていて楽しくトランスクリプトや本レポートが書けた。

また、中山におけるユズの歴史を知ることができた。私は今まで2回安田町を訪れたことがある。そこで鉄道が走っていたところや田んぼにユズがたくさん植えられているところを見た。昭和40年くらいの頃はそのようなユズがあったのではなく、温州みかんが盛んに育てられていたこと。そしてその頃はユノスも家庭にあったわけではなく、ユズが育てられるようになってから婦人部の中で、イベントで使われるユノスの割合が決められたことなど今のユズの背景を知ることができた。また安田町を訪れるときに、温州みかんがどの辺に植えられていたのかなどそのような背景を頭に入れながら観察してみたい。

## 【スタディ・ツアー】

### 部落にたったひとつの電話 —— ミドリさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・1年生

村上 雄一郎

#### ■安田の境目

ミドリさんは、昭和24（1935）年に高知県安芸郡安田町瀬切地区に生まれる。一時期は安芸市で暮らしていたが、現在は夫婦で安田町に暮らしている。

#### ■ご両親のお仕事

えっとねえ、一人は営林署。うん、あのほら、その時分は植林、うんヒノキとか。ほんで営林署の方で、母はまあ家で。というかお百姓さんやったけんね。言うたら半農半業っていう？一人は、もうほら田んぼ作りよったけんね。昔はお米のがけっこう値段が良かったから。今はもう全部ゆず植えたけど、それで父親を仕事に上げて。

#### ■森林鉄道と登校

さっき歩いてったところ（インタビュー開始前にミドリさんと周囲を散策した）、あそこが線路やった。森林鉄道。ほんで私らは中学校の一年生の8月までは客車があつて。その客車があつて、小学校は今みたいにこやなかったがよ、中学校だけが下に行きよったがね。それで、それで通いよった。中学校の森林鉄道が廃線になるまで。中一のねえ8月頃にねえ森林鉄道が廃線になって。それから自転車を通うてきよった。ほんでこちらの道路が、今ほどやないけど整備されて、でも舗装やなかったがよ。でも舗装されてなかったけど先ちょこつとしたら広いところがあったがね。こんもりと砂利道になっていっつも車だけが通れる道があつて、その時感じたことで、まっすぐやけ目つぶって自転車で行ったら何処まで行けるかってやりよったら下でこけた。

そうですね、うちは家の前を森林鉄道が。今はもうね、あのほら馬路の線路になっちゅうけど、昔は家の前を走りよったきにね。

#### ■学校

1クラス11人しかおらんかったけん。ほんで複式やったがやけん。ほんで中学校に来たらこやけよ。場所はこやなかったけど今はじねんの所がそうやったきね。写真にあるように

ね。私らの時は38名かな、7名やったかな。それが一クラス。そう中学校は一クラス38名で一クラス。ほんで小学校は複式で、11名で隣で授業しよる時にはよ、私ら地図の絵塗りしたり漢字書いたり。

—放課後、どんな遊びをしていましたか

放課後もうねえ、朝のねえ結局ほら奥から出てくるろ、その連絡にのってくるろ、ほんでそれが、一番の最初のに乗らにゃあよ、ほんなら何便もあるわけや無いきいね。ほんで学校を7時ちょっと過ぎぐらいに上に出たら15分ぐらいでつくきいよ、連絡やったら。やから7時半ぐらいに学校に行くのよ。ほんで皆あは、行ったらもういろんな遊び、ほんで遊びで小学校の時も中学校の時も、従姉妹も一人来よって、ほんならなんか家帰りたくないきね従姉妹の方がアハハ従姉妹が泊まりにきたりとか。

## ■電話線

みんなのところにまだ電話が無い時やって、ほんでウチは公衆電話が家の前にあって、うちら瀬切部落やんか、瀬切部落は最後の端やんか。でのすぐほんであれしたらすぐ船倉部落ってあって奥に二つあったきで。ほんでまだ谷やった小倉部落そこらは知らんけど、多分この、線路沿い、下の、あの廃線になって下が道路になった時と思うきに。私らが中学校の時やと思うで。ほんで37、8年の事やない。なんかねちゃんと電話ボックス作ってくれて、木でやけど、大工さん来て、庭の入口へほんで部落の人に電話来たら呼びに行っちゃらないかん伝えにいっちゃらないかん。ほんで電話に出た人が行かないかんがよ辛くて。

—それは頼まれて？

というかねこう伝えちよいて言うん。だってほら一つしかないけんね。最初の頃は電話を回したら交換手の人が出てね、それやった。そいで最後にお金を言う。今の良心市みたいにお金入れるボックスを作ってその中に入れるようにして。

—各世帯で自宅用の電話を持ち始めたのは何時ごろでしょうか。

37、8年、昭和39年が中学3年、30…38年ぐらいと思うで。下の線路がなくなってからの話やけと思う。公衆電話うちへ置いとった。あとはね、個人、個人に買ってでも置いたのはとっとと置いたのは40年だよ、帰ってきたときに個人になる、40何年ぐらいやろね。

## ■おへんどさん

おへんろさんやったらいいけど、ものもらいのおへんどさん。だってこの辺が神社がある

ようなとこやないやんか。そんで八十八ヶ所やんかお遍路さんがさ、それやないけんね。ほんでね、こんな袋を下げて、ほんでみんなここにお米をあげよったんよ、結構きよった。

いやそれやけんだけど、毎日家におるわけじゃないけんね、おらん間で来たら、ほら、こんな一合マスへお金やったらなんかなんかこう袋あれしてからに結構おへんどさん来よったねお遍路って言ったらアレやけど。わからんで。ただ物もらいの人とは誰も言いやせんけど、へんどさんが来たきって言って多分村中がみんな払う言うんでお米に上げようた。でお金やなしにお米やった。

## ■給食

みんながもうね私ら結構ね、小学校のね、あの、僻地の学校の、まさにこの辺の学校はなかったけど小川小学校は小さかった。小川小学校て言うたがよ私らの居たところはね、ほんで小川の小学校は小さかったき。小学校の何年生の時か忘れたけど5年生かなんかしらん給食を始まったがよ。ほんで中学校に来てもなかって、中学校の方で1年、2年生ぐらいから中学校にあったけど、僻地でどういうふうに給食、小さな学校から始めたがよ、国のあれでね。ほいたらパンがね、かったいが。最初の。ほんでねかったいパンでみんな食べんき、川のそこへこんな、セロハンする。なんなんだろうねほら、かかりをする学校の先生の、ちょっと紅色のあれ、先生くれるがね、それくるんで帰るがよ。食べんけん。そしたらね、あの途中であれ出して刀にして遊ぶ。なんか、パンでチャンバラしながら帰ってよハハハだってもうかったいんでえ、きたときからかったい。

一でもパンを食べることって家で無いんですね。もう初めてのパンかもしれない。

ああでもね私ねそんなこともない、パン、小学校の時にね学芸会があつてね、私5つもせなきゃいかんかった、役を。花咲じいさんのは私よう忘れん、花咲じいさんまだ4年生のときのやつが花咲じいさんの悪役？ いじわるじいさん？ ほんでね赤ずきんちゃんの狼の役、なんか知らんカエルの役。さっきね上級生と一緒に踊ったのが3人。女の子があれしてからねそれはね、お家にね、振袖のある人っていうやっぱそれで3人でこんな着物初めて着てでこの桜の花持って踊ったけど何でミドリちゃん6つも7つするの先生に言われてその時にね、あの狼の役あるやろ。ブドウ酒と、パンを食べないかんの舞台の真ん中で、覚えちゅうね。パンも私あんぱん食べれん未だによう食べれんけど。帽子パンしかよう食べれんかった。あつたかて小学校4年生の時。ほんなら学校に行く途中に駄菓子屋さんがあつて自分の好きな方でかまんって言われてね家で、お茶を入れて来てぶどう酒でああ旨いって食べたのを覚えている。

## ■父親の仕事

営林署は本当はね植林しに行くやんか。でもうちの父親は組合員の委員長しよったやろ？ 労働組合の、でほとんど事務所詰め、魚梁瀬の事務所詰めにおったりとか。組合の仕事があつ

たら役人さんのそばにおったりしよった。なんかあの仕事好きやってみたたいよ。組合の仕事が。いやあほら、営林署も行きよったですよ。嫌いやなかったみたいよ。なんか演説が好きやった。そう、本当に、あのそういう人らも良く来てお話してたけどね。

## ■掃除

ほこりってほら今連れてくるやんか、ほんならね、サッシやなかった。今はサッシにしてあれやけど、昔は障子のあれ開けたら夕方来たたらがじがじがじっていうぐらい埃りよったきにね。父親が仕事に行った後にもし私らが家におったら掃除をしとかにゃいかんかった。拭いてね、もうねお正月の、お正月の前が来たらもう本当にうちら家族にみんなだよ3日はかかって、大掃除すごいそうそう、これは埃やなしに（ホンドウ）それで大掃除、ピカピカにせねばいかん。みんなでそういうふうに、地図そのものが切れて何か知らんけどその時分ってみんなしよった。なんか間ではできんかったというアレがあった。で夏、夏はあの「夏がえ」っていう言葉で、あのもうみんなの何がみんなの家で、それかねほんで、お家の中へこんなはしごを持って行ってそれへ、板をしてからにもう屋根の天井のアレの外のあれから外側に全部拭きよった。みんなそれしよった。どのような家も、夏のお盆前が来たら、あれどれぐらいからなくなったんだろう。すごいぐらいみんながねもうね畳も剥いで、おいて、ほんでね、もう大掃除大掃除。だけどみんな夏しか、夏がねその涼しい、涼しいじゃない。寒ない、そうしよった。そう言うたら私がずっと記憶にある。

—いつからか無くなった？

いつからか、ああ掃除機ができたしね。そう、掃除機が出来たし。私が小学校のときぐらい6年ぐらいときから掃除機、洗濯機もそれぐらい、今みたいに質は良くなかったけどそういう。炊飯器はね結構早かった。

小学校のね高学年6年、私は6年ぐらいのときに掃除機と洗濯機もそれぐらい。両方とも早いかわからんけど。なみたいに絞るところがそこよねしちゅう外に着いてからっていうか、こうやって、するみたいな、あれやったけど。買うちよった。

## ■買い物について

—その洗濯機に関連する服のことなんですけど、服は何か近くに服屋さんとかが？

あの時分はね売りにも来よったね外商終わったね。そう、家へ直接に、車で売りに、小学校の時とかね。

—家に直接なんかものを売りに来るのって。

いっぱいあった。もうほらお魚もあるし、乾物もあるし結構ねえ。お野菜は作りよるき。みんな自分のとこで。お野菜はあれやないけど、魚があつて。お肉はね、多分ね、魚屋さんがよ。ちょこつともっちゅうぐらいのもんやなかったかと、鯨肉はもう必ずあったね。けど、ここ最近最近もそうやけど魚屋さんよく来よったんで車になってからもね。

自転車、でもアイスクリーム売りにきよった。あれ、もうけんど駄菓子屋さんは何軒かあつたきよ、それなりのこの枠（範囲）しか知らんきよ、不自由と思う事はなかったし、食べ物もそんなに、アレやった。母が色々作ってくれよった。お饅頭あれも、すごいすごいぐらい上手なかつたつけ、雨、雨が待ち遠しかった。雨の日は仕事に外いかんけん、ほら家で帰つたらもうありとあらゆるいろんな1ヶ月ぐらいの間やで、今日はなん、で、ガスがなかったときでも炭火で何かね、こんな鉄のあれでねドーナツ型のあれしてね、それ、カステラみたい焼いてくれてすごい。タマゴはね家でコケッココーがね。

## ■プロパンガス

そう、プロパンガスがねどれぐらいやつたら、中学校のときにはもちろんあつたきよ。小学校の間にはあつたと思う。昭和30、35年過ぎたらなかった？ はっきりわからんけど39年が中3やろ、9、8、7やろ、多分30、やっぱし6年ぐらい上回つた後、確実にあつたと思うけど。あれプロパンガスやけ、みんなそれぞれやけどねそう。ほら、炭火で最初はこんなね、今みたいね二つのねガスじゃない三つやんか。

ふたつのガスやなしにね一個のこんなの今でもほら、でもあれはほら、あれやろ、ほんでガスボンベ、その一本、JAがやりだしてからやねJAこちら全部農協やけんね。

## ■服装

えーと、ね、なんかねその爪を塗るは無かつたけどね。結構削る、人によってはおしゃれのあれしてからにする。つめの切り方、あのほら、ちょっとこういうふうにするような感じという。あの髪を茶髪というかその脱色するあれはまだなんかあんまりはやってなかつたけど、結構それなりに。

—服装の方はどんな。

中学校、中学校のときにはそんなにあれやなかつた、高校生なつたらね、中学校ただね、ほら高校やつたらここから出るやんか、あのうち私らのときには中芸高校やつたのよ今はあれやないけどこの中芸高校がね私らのときに5クラスあつたんで5クラスあつて、ほんで制服があつて、中学校のときには体操服の本当にね体操服はね、こんなほらブルマ？ やつたんがよ。そしたらそれで中3やろ、それが39年やろ、学校行つたら制服を買わんといかんね、ずっとこれ制服と教科書教室回つてあれしたらね、そのブルマがね、それからジャージのピタツとしたろ、高校生の始め。こんなのやと思うて。ほんで、中1の私らの高1のときからブルマやな

しに今の、今のあれになって、あの今に、今にほぼ近い感じに私昭和 39 年に卒業やけん、昭和 39 年やろね。そのときから、大体今、今のあの上の背ジャージも上に着るのも下に着るのもジャージのズボン、学年によってマークが違うか何かでそうやった。なんか嬉しかった。

—結婚された当時のですけど、結婚式とか。

そういう家やったウチは。だってあそこのね私が結婚したときにはその JA の前に支所がある、やっぱあそこではねその後はみんながそこでしよったけどそこがまたね。あくる年にできたのよ何でできてなくて私らお家やった。

—JA の前の施設が、今も結婚式に使われる？

今は使われない。そのときのそれちょっとそもそも昔私のはね。次の年から使う。なかったから、なかったっていうかね、あるなし関わらず私は、私はもうギリギリやねそれまではもうおうちで。

—どちらのおうちで？

それぞれで。それぞれ 1 回ずつ。婿さんの家にお嫁さん来るやんか、テレビでやるみたいに聞いてそこでお式あげて里帰りと言って、またほんで、嫁さんの家でという。両家が集まるゆーか、式場がないと、あそこ、それから後は式場だって二度手間やけんね。うちの子はもうせんって言うてせんかった。

### 【聞き手の感想】

良い経験になった。現代では経験できないような物事を聞くことは興味深かったです。また、所々で地域の独自性を感じる話も聞く事が出来たことや、所々で現代にも通じる感性が露出して見え、それがまた面白く思えました。

また、自分にとって、他者の過去の経歴を聴くという事だけでなく、インタビューそのものが初めての取り組みでした。なのでこのようにレポートを纏める中でより良い質問が出来た箇所が多々発見出来ました。次回があれば改善したい。

# 大豊から安田の山暮らし

## —— フミさんのライフヒストリー ——

人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース・1年生

LOO VIKI

フミさんは、昭和28(1953)年1月15日に高知県長岡郡大豊町に生まれる。結婚後、同県安芸郡安田町に移住。現在も旦那さんとそこに住む。

### ■大豊町の山暮らし

通学路ね、歩いてね、1時間ぐらい歩いて、通いました。山のおやたけから降りて行くときは早かったけどね、1時間もかからん40分くらい出たよね。でも帰りは坂道になるき、1時間を余って、まだしんどいきぶらぶら遊んで寄り道してた。家から降りてくるまでにどれぐらいかかる、20分ぐらいかかったかな。降りてくるなんだよね。で、ずっと車通ったり県道からは緩い道あるけど、県道も大きいダンプも通ってるね。ちょうど、あの道が広がる時代だから、ダンプも多かったけどな。今みたいに舗装されてないでボコボコの道で水たまりが「ぶっちゃん！」と離れてく傘持ってきつかった。兄弟でいったこともあるけど、時間帯が別々になって、一人になったり、二人になったり、友達と行ったりする。放課後は買い物してられてもお腹すくとちょっとした駄菓子屋。そこに寄って食べ物を買って。小遣いももらったけどね。5円、10円、20円？ それぐらい。

4人兄弟で、3番目で。で、夏休みとかは、さんまいをとるとかね、それ80ぐらいとか、それまでに朝、3人がかंबかって、時間できて、それを急いで、3番目やき、でもぶしょういし、一番じたいにのろかったね。まあね、じろうものかったりあった。なんか、もうあったよね、朝。お弁当に入ってるおかずは主に卵。お母さんには悪いけど、うまな手料理ではないと思う、分かったかな、玉子焼きとかね。で、あの市販のウインナーとかソーセージとかあんなものとか天ぷらとか、そんなもんじゃあったのかな、卵しか思い出ない。ちょっとその学校の辺にちょっと個人のお店があったような気がする。そことほかのところで買うたら市内。。高知市内でできおったかな。そんないろんな雑貨みたいなおる。

### ■結婚後の生活

家族構成、今は主人と2人です。子供は男3人において、一番上が嫁さんもおって、孫が女の子ばかり、3人おって、市内にいて。2番目は、あの、おおてからむこいたかごがありますよね、かみつくるせいしん。あそこ行ってて。3番目が市内で運送会社。だから、2番目がいつも十日一回に帰ってくるから、鉄道で、家のことに、十日帰ってきて、一日も一晩、二日もあるよな。夜勤をやるまでね、二日のうちに泊まっておれるき、まる一日に仕事手伝って助かった。子供が学校済んでから、たまにね、電子工場ていうか、ちょっとの間もあってね。それに

何年ぐらいもいた。3年ぐらいかな、何年ぐらいも忘れてた。きよやさんといっしょに働けよ。部署は違うけど、そこにやめて、やめてもまたじねんでじっとまれた。

## ■安田町の婦人部

私は何年……42、3年ぐらいかね、44年ぐらいなるかもしれない。25の時から安田町に住んでいる。安田町いいところ……人とできるとこかな。昔は私らも子供のころであり、そんなに人と付き合いこともなかったき、こっち来てからは、まあ、いろいろね。その時は婦人部と言ってもおばさん入ってるときね、我々はまだ入ってきなかった、おばさんはその時は何して、ただ、友達するよって、やっとなんか受けて、でも婦人とも。婦人部はイベントもだんだん少なくなって、みんなが高齢化になってきて、さんざん遅くなってきて、そうなんですよ。残って3人ぐらいの人が一番の働きっていうか、活動をしてる人やけど、もう、あまり出てこないって感じだね。さっきも赤池先生に話したけど、家の活動にもこんきかぐいでやめるよって、でもにせきかんけいのほうじんぶもあるですけど。で、家のほうは、いや、こういうしてくれる人も少なくなったき、かんじます。

## ■山での農業

大根、白菜、ほうれん草とかはそんなもんを作ってた。収穫した野菜はあげたり、私は「じねん」にねちょこちょこ持っていきます。みんな持っていかんけどね。でも、シイタケわりと作っちゃたり、シイタケを売れるがですよ。で、シイタケを持っていくも、なんかほかのも作っちゃったから、ついでのもちやね、たまに準備ができたら。「じねん」はねお客が少ないね、あんまり持ってきてもどんどんどんどん売れて、昔はね。「じねん」がなにしたころは売れたですけどね、町に通う人だけ。農作業は自分の手でしゃねかとはしんどい。どういってもはね、機械だけでもいかない。農薬はあまり使わないけど、虫とかね、死なんね、農薬っていう用なんてしない、主に潤うたらきっちり消毒せんと。

動物？ 猪、鹿やろ、狸やろ、お猿やろ、うさぎさんが今一番多くできてね。ゆずをかじったり、一番お猿さんが今難しい。鹿とか猪は全部かごにもして、入れこないのに必要き、うさぎさんはかごに、ほかに入るするき、ゆずの葉っぱとか幹とか食べても歯をうらしてるね。お猿さんはわりと恐れでこんみたいよね、あの、シイタケはやっちゅう。それはね、鹿が食べるんだ。で、鹿も入らんようかごしちゅうだけど、お猿さんは上から入る、くくって入る。どうしようもなかったき、バズがというかもなったらこうなった。ゆずの畑の広さは人一倍となる思います。一番ぐらい。9反ばあると思います。実生という樹でとるなったりして、面積だけは広い。柚子を出荷するきね。でも、あの、自分で食べるのもちょっとさぶじもするけど、それも全部今は終わって、人より同じようにようせん。今のおれいに、肥料いれてます。遅れるか早いかわからないけど。春ぐらいになるか肥料入れる。みんなはいろいろ銘々違うけどね。おれいといったら、8月か9月、夏の時に入れるけど、春に入れる人もおるし。収穫したゆずはJA中山に出荷する。その、明神口のところに加工場（搾汁工場）がある、搾汁場が。

明神口のせせらぎというところがありますよね、学校はこっち、そこにあります。

今年のゆずの収穫量は一番少なかった、7トンでした。去年の半分。少なかった原因は気候じゃないのかと思いますけどね。昔はね、あまり寒いところは向かって、ゆずってあまり知らなかったらしいですけど、だんだん取れだいたいっていうき、それ大きくの変動じゃないのかと思うけどね。もっともっとね、前10年までいかんかも……。そのとき20トンもとれた時もあるかもしれない。その時は死にもものぐるいです。

## ■動物

鶏ね、卵産んでるのニワトリ2羽と、なんなただが、4つと、清岡さんから2羽、8羽飼ってる。けどね、ほん軍鶏ですね、目がするけどね、めんどりをかぼうてね、めとめたらこわい。かかってくるゆずあってね、ずっと網かっこして、その、しゃもんと、卵産まなかったとほっとちゃう。卵産んだのは別のとやに入れた。

牛は2、3頭飼ってました。飼ってる人もあったき、ここで牛ができたよといったら、そこでばくろさんというか、牛の間に中間になるって、引き上げするとか、牛の市が安田にあたるです。いまはなくなったけど、あそこに牛の競り市場があったよね。うちでおった牛でも売りに連れて行くし、それで売りに牛がおるよと言ったら、その、牛をこうやって連れてきたり。今はもう、飼うはもうしんどいき、安かったしね、その時、一頭が80万もいけば、今は80万いけるね。買うときはどれぐらいだったよね、30万ぐらい、覚えてない、適当で、売るにしたらね、1年ばこうたは、こんな牛をだいて、値がよかったら、100万もこすわけ。血統というかね、親の血統があったら、その血統で値がつく、牛にもくじゅくあえがおったら、買い手がするわけね、みんなは。せぎてがあったらだんだん上がるし。お米が安いよね、牛を売ったお金で、だいぶ助けた、機械はね。お米はもう全然、自分で食べるのを、だけの値打ちはない。お米が一番、この田んぼとか畑を荒らさんようにするのは一番手がいらぬ。草堀になるきね、畑にしたらね、草だけは太らんきよね、はげさんに、ちがあったかい。

## ■山でとるタケノコとイタドリ

4月ぐらいイタドリを取りに行つて、皮はいで、お塩ちょっとしたかな、りっぱなくろいれて、冷凍する。タケノコは5月に収穫する。見つけるに？っていったよね、土がモコっとうごいちゅう感じが。足でつんつんやったら、硬い。タケノコなんやろと、ようとね、分からん。みんなに持ってきて、よくあります。イタドリは危ないところは、ね、かうちとかね。タケノコは山にある。

## 【聞き手の感想】

私は今回の実習で、高知に来てから初めて高知市以外のところに足を運び、初めてインタビューをして、ライフヒストリーの聞き取りをした。フミさんはよく話をしながら笑って、とっても楽しかった。自分は外国人で、話した日本語がフミさんに理解させなかったことは少し申

し訳ないと思った。それだけでなく、インタビューの間ずっとフォローしてくれた笠原さんには感謝している。そして、自分は国の首都で育ったので、山での生活や農業についてあまり分からなかった。しかし、フミさんの話を聞いて田舎の生活のおもしろさだけでなく、農業の大変さも分かった。

今回の実習を通じて、自分が経験してない生活を、インタビュー어의ライフヒストリーを聞いておもしろさと不思議さを感じた。また、留学生として日本もしくは高知への理解もより一層深めた。

高知大学人文社会科学部 人文社会科学科国際社会コース  
「2022年度 国際社会実習報告書」

2023年7月 発行

編集・発行 高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科  
高知大学人文社会科学部人文社会科学科国際社会コース  
〒780-8520 高知市曙町 2-5-1  
TEL 088-844-8425  
FAX 088-844-8249  
<http://jinbun.cc.kochi-u.ac.jp/kokusai/>

印刷・製本 株式会社リーブル  
〒780-8040 高知市神田 2126-1  
TEL 088-837-1250  
FAX 088-837-1251



2022 年度

# 国際社会実習報告書

高知県安芸郡安田町中山地区